

～出雲から広島、そして未来へ～

「310 万人」

この数字が第二次世界大戦で亡くなられた方の数だと聞いた時には、驚きと恐ろしさを感じました。そして、わたしたちが住んでいる出雲市湖陵町でも、戦没者の名簿に載っているだけで 350 人以上の方が戦争により亡くなられていることを知りました。わたしたちは、世界地図を広げ、その方たちが命を落とされた場所を一か所ずつたどっていきました。この方たちの目の前にはどのような光景が広がり、何を考えながら毎日を過ごし、誰を想って亡くなっていかれたのだろうか。そう考えると胸がいっぱいになりました。

また、わたしたちのひいおじいさんやひいおばあさんたちは、実際に戦争があった時代に生き、辛い思いをしていたことも知りました。「戦地で昨日まで一緒に戦っていた友が目の前で亡くなった」「終戦を迎えた後も日本には帰国できずシベリアの収容所で過ごした」「特攻隊員だったが、乗るはずだった飛行機が故障をしていて飛ぶことができずに、命が救われた」「辛さのあまり戦争の記憶が無い」わたしたちの先祖が体験した戦争は、どれも悲惨なものでした。

戦争はどこか遠く、自分には関係のないものだ。そんなイメージをもっていたわたしたちにとって、衝撃的な話ばかりでした。生きたくても生きることができなかった命が、そして受け継がれるはずだった命がたくさんあったのです。そして、今、わたしたちが生きているということは、数々の苦しみと奇跡が重なって受け継がれた命であるということも知りました。命があることを当たり前だと思わず、今ここに生きていられる幸せに感謝して過ごしていきたいです。

わたしたちは、原爆についても学習をしました。修学旅行では広島を訪れ、平和記念資料館を見学したり、実際に原爆の被害を受けた語り部さんのお話を聞いたりすることができ

ました。本当の怖さを知ったわけではないのかもしれないけれど、原爆が悲惨なものであること、そして今の日本が平和であることを実感しました。語り部さんのお話の中で、強く印象に残っている言葉があります。それは、「戦争がなくなるよう願うだけでは不十分だ。人間として生まれてきたのだから、人間として正しく生きなさい。そして、言葉ひとつで争いは生まれるのだから、言葉を大切にしなさい。」という言葉でした。この言葉はわたしたちの胸に突き刺さりました。そして、今を生きるわたしたちが、これから平和な世界や未来を作っていくためにできることは何か、と考えてみました。

戦争をすると決めたのも、戦争によりたくさんの大切な命を奪ったのも、全て人間です。この悲惨な過去を変えることはできないけれど、戦争をしない未来、全ての命が重んじられる未来、誰もが人間として幸せに生きたいと思える未来を作ることができるのも、わたしたち人間です。しかし、平和を願うだけでは、平和を守ることはできません。私たちの願いを実際に行動にうつすことが大事なのだと感じました。

今もこの瞬間に、誰かが戦争により苦しんでいるという事実から目を逸らさないこと。戦争の恐ろしさや平和の大切さをしっかりと学び、戦争を知らない人たちに伝えていくこと。人間として、人に優しく、言葉を大切にしてお過ごしこと。自分の目を見て、自分の頭で考えて、正しさとは何か見つけ出すこと。生きている幸せを噛みしめ、自分の命も相手の命も大切にすること。小学六年生のわたしたちにもできることはたくさんあります。平和な世界、平和な未来を願って、わたしたちは学び続け、そして行動し続けていきます。

令和5年8月11日

出雲市立湖陵小学校6年

野津 帆花 鎌田 蒼 本田 賢信 野津 七美